様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年４月２８日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2008～2011
課題番号：２０４０２０７０
研究課題名（和文）「患者の選択」をめぐる英国政策過程の分析：自由・効率・公平をめぐるダイナミズム
研究課題名（英文） Patients' Choices in the UK: Balancing Freedom, Efficiency, and Equity
研究代表者
松田　亮三（MATSUDA RYOZO）
立命館大学・産業社会学部・教授
研究者番号：２０２６０８１２

研究分野：医療政策
科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学
キーワード：医療政策、政策過程

１．研究計画の概要

本研究の目的は、医療政策研究の重要な一部分である政策分析の発展を意図し、特に英国での医療政策の形成過程における「患者の選択」をめぐるダイナミズムを明らかにすることである。具体的には、ブレア政権成立(1997 年)からおおむね 2009 年までの英国の保健・医療政策(health policy)過程における「患者の選択」をめぐる以下のような問題群を明らかにすることを目指す。１）その社会の中で、政策課題がどのように焦点化され、また議論されているか。この際、関係するアクターがどのような役割を果たしているのか。２）それらの議論の中で、どのような政策が議論の対象として提出され、その政策が議論の過程でどのように変化し、最終的にどのような公共政策として結実したか。３） それぞれのアクターは、この過程の中で、どのような力(power)をどのように公使したか。４） 「患者の選択」と関わって、健康・尊厳・自由・公平・効率・アカウンタビリティなどの政策上の重要な理念がどのような意味合いで用いられ、どのような議論を導いていったか。５） 一連の議論の中で、保健・医療の課題や政策の実行や評価に関わってどのようなエビデンスが誰によって集約され、どのように提出されたか。そして、その提出された事項は政策をめぐる議論にどのように関わったのか。

上記目的を達成する方法として、ブレア政権成立(1997 年)以後を中心に、①政策に関する分析軸をめぐる議論についての理論的検討、②研究対象期間における保健・医療政策についてのデータの収集、③分析と総合、④成果の発表、などを実施していく。なお、歴史的経過が重要な場合は、それらについてのデータ収集も行う。

２．研究の進捗状況

ブレア政権成立(1997 年)以後を中心に、政策に関する分析軸をめぐる議論についての理論的検討、研究対象期間における保健・医療政策についての政府資料・関係団体の資料・業界誌・新聞などの資料収集を行ってきた。多くの資料をインターネットで収集するとともに、現地でしか入手可能でない会合への参加、関係する専門家のインタビュー、業界紙等の資料、施設の視察、などを実施してきた。　これらについてコンピュータにインプットし、整理・分析を行ってきた。以上の中で、以下のような事項が明らかに鳴ってきている。

(1)「患者の選択」は、ブレア「選択」をめぐるより大きな政治との関係がある。これには、住居や教育など他の領域が含まれている。他方では医療の領域に対応した「選択」が議論されている。

(2)ブレア政権によって「患者の選択」や医療機関の選択、健康に関わる習慣の選択の両面と関わって用いられており、この点で医療をめぐる政治とともに健康をめぐる政治とも関わっている。

(3)「患者の選択」は、公的部門(NHS)での選択とともに、公私役割論とも関係し、それゆえサービスや質の向上という政策目標とは別の文脈でも議論されてきた。

(4)情報コミュニケーション技術(ICT)の発展など、情報環境の変化の文脈でも「患者の選択」は議論されてきている。

(5)「選択」は公平、効率など多様な論点と

関わるので、それ単独では議論になりにくいが、政策全体の一つの軸として重要な位置を占めるようになってきている。
　以上の点について検討した論文やワーキングペーパーを公刊すべく作業をすすめてきた。その過程で制度的な変化についても整理した。

３．現在までの達成度
　③やや遅れている。

　具体的には、①聞き取り調査の実施が、対象者の数と多様性という点で想定より少なく推移している、②ワーキングペーパーの発行が遅れている、③連携協力者からの批判とそれをふまえた研究の質向上、という点である。
この理由は、①文献資料の探索・収集に予想以上に時間を取られていること、②資料収集の時期に政権交代が生じたために、そのことの調査実施上どのように評価するかの検討が必要であったこと、③多様な資料の分析に予想以上に時間を必要としていること等による。

４．今後の研究の推進方策

　研究の基本的な枠組みについては変更の必要がないと評価している。したがって、ワーキングペーパーの作成、聞き取り調査の実施、批判的検討の実施等を迅速に実施していく。それらとの関係において、年度内のシンポジウム開催を実施することは現時点で可能と考えている。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）
① 松田亮三(2010.10)2006 年医療改革における医療の責任と財源調達の変化『保健医療社会学論集』Vol.21, No.1, pp.1-8.査読
② 松田亮三(2009.12)ブレア政権下のＮＨＳ改革―構造と規制の変化『海外社会保障研究』NO.169, pp.39-53.査読

〔学会発表〕（計０　件）

〔図書〕（計１　件）
① 松田亮三編著(2009.02)健康と医療の公平に挑む（東京：勁草書房）(総ページ数266),pp.1-7, 9-37, 39-51,53-70, 103-118. 119-143, 145-171, 199-209 を執筆